栴檀

双葉南小学校だより
発行日2011，6，13
№　2
発行責任者　末永幸弘

頑張る南っ子

皆さん、お元気ですか。避難生活も三か月、まだまだ苦労の日々は続きそうですが、一歩一歩前に向かって進みましょう。

各地に散った子供たちの様子が少しずつ伝えられてきています。紹介したいと思います。

先日（6／10）ホテルリステル猪苗代で、双葉町小中学校保護者懇談会がありました。教育長さんもお出でになり、これまでの経過説明や今後のことについての話し合いがなされ、その折に猪苗代町立長瀬小学校に兼務している林香世子教諭の報告がありました。

ただ、細かいところで、筆算のしかたを忘れてしまったり、漢字が思い出せないなどの場面も見られますので、今後も、リステル職員室の教員や勉強室などを積極的に活用しながら、家庭学習を進めていただきますようお願いいたします。

さらに、長瀬小学校では、埼玉から転入した児童について、教科書の内容が違うため、こちらに来て学習内容に漏れが生じないよう、福島と埼玉の教科書を照らし合わせながら、兼務の我々が個別に指導するなどして対応しています。

しかし、それでも分からないところが出てくるかと思います。特に高学年になると、学習の内容が一段と難しくなるため、子どもたちが、自信をなくしてしまわないように、お早めにお近くの教員、または長瀬小の担任にご相談ください。

授業中は、少し緊張して話を聞いている姿も見られますが、その分、休み時間には、友達と校庭でサッカーをしたり、ふざけあったり、おしゃべりをしたりして、リラックスしてすごしてしています。これはどこの学校でも見られる様子ですね。

その他、今までの学校生活で心に残った出来事をお話しさせていただきます。

先日、3・4年生の遠足に同行し、バスで会津若松へ行ってまいりました。そのバスの中での子どもたちの会話です。

長瀬小学校のA君が、となりの席の双葉町のB君に「ぼくはスキー得意なんだよ。こないだけがしたけど。」と話しかけると、B君が「ぼくはスキーはできないけど、水泳は得意だよ。スイミングにいってたんだ。」

A君「へえ、プールでは負けそうだな。」

B君「双葉は海があって海水浴場もあるよ。」A君「え～海あんの？」

B君「うん。あるよね、先生？」

と双葉のB君に話しかけられ、私は「そうだね。みんなに見せたいね。海でみんなで泳ぎたいね。」と答えました。しかし、B君の「もう双葉の海は泳げないよ。」というつぶやきと共に、話が終わってしまいそうになりました。

すると、A君が「B君もみんな、冬になったらスキーにおいでね。猪苗代ならどこのスキー場でもいいよ。みんなでいって待ってるから。いっしょにスキーしよう。」と何の疑いもなく、笑顔で言ってくれました。

B君「うん、わかった。行けたら行くからね。」と嬉しそうにうなずくと、二人はまた、バスの中でじゃれあいながら、楽しい遠足の思い出作りは続いていきました。

5年生は田植えを経験しました。どろどろになりながら大はしゃぎで楽しく活動した後の帰り道、突然

「次はどこ行くの？」「わかんない」

「おばあちゃんのとこかな」

「うちは、アパート探しているみたい」

という声が聞こえ、はっとしました。一学期以降の移動について話していたのです。子どもたちも現実に向かい合っているのだと気づき、私も少し淋しい気特ちになりました。

すると、横で話をきいていた長瀬小の男の子が、「みんなはどこにもいかなければいいんだよ。ここにいたら大丈夫なんだから。危なくないし。ずっとここにいればいいんだよ。」

と大きな声で話しかけてくれたのです。もちろん、その子はくわしい事情は何も知りません。しかし、それを聞いた後は、子どもたちの足どりが軽くなり、おしゃべりを楽しみながら学校へ帰りました。きっと、その一言が嬉しかったのだと思います。

4、5、6年生の総合学習は、双葉町の子どもたちが集まっての活動時間です。みんな顔見知りなので、教室での緊張がいくらかやわらぎ、ちょっとだけ、一人一人の素顔がのぞけます。とても大切な時間だと思います。

野口記念館に見学に行ったときは、ふるさとをはなれ、医学の研究に生涯をかけた英世の話を、どの子も一生懸命聞いていました。その後の感想のいくつかには、自分もあきらめない人になりたいと書いてあり、何か自分だちと重なるところがあったのかもしれないと思いました。

英世の母シカの手紙を読み、涙ぐむ私に、ある女の子が「先生もお母さんだからシカさんの気持ちがわかるんですね。でも、泣かないでがんばってください。うちのお母さんは泣いたことありませんよ。」と声をかけてくれました。私の方が、逆に励まされてしまい、2人で笑ってしまいました。

7月18日に予定されている運動会は、双葉町の子どもたちと長瀬の子どもたちの思い出作りのために、先生方が相談して企画されたものです。「せめて楽しい思い出を作っておくり出してあげたい。どうしても、7／15日までしかいられないのであれば、みんなで長瀬小の体育館でキャンプしましょう。私もいっしょに寝泊まりします。双葉町の子どもたちは、今は長瀬小の大切な子どもだちなのですよ。」と、目をうるませながら教頭先生はおっしゃってくださいました。なんとか、8月まで退去が延びたときいて、職員室に安堵の空気が流れました。体育主任の先生からは「子どもも保護者も楽しめる忘れられない運動会にしますよ。」と言っていただき、私は、感謝の気持ちでいっぱいで言葉になりませんでした。

保護者のみなさまもぜひ参加してください。どうしても、運動会前に転居の予定があるご家庭でも18日はお休みの日なので、その日だけでも参加してくださいとのことですので、よろしくお願いいたします。

このように、先生方やまわりの友達の温かさに囲まれ、日々、子どもたちの学校生活が営まれています。

先日カウンセラーの先生が来校し、子どもたちと面談しました。特に大きな問題点はなかったものの、毎日ではないが、よく眠れない、食欲がない、という日もあると話していた児童がいたようです。新しい環境で疲れた時などにストレスがたまると起こしやすいそうです。

別紙に、心と体のケアについて参考資料を用意してありますので、各ご家庭で試してみてください。おうちの方にも役に立つ、よく眠れる運動などの資料も入っています。

カウンセラーの先生は、「地震のこわかった記憶、友達とひきはなされたつらい記憶、家に帰れない悲しみ、などの全ての記憶は、残念ながら消すことはできません。しかし、その上に、楽しい記憶、よろこびうれしさなどのプラスの気持ちを積み重ねることによって、つらい記憶はうすめられて行くのです。だから、楽しいこと、子どもたちにとって気持ちのよいことをたくさんしてください。」とお話になっていました。

今のような避難生活の中で、それができるのは　学校であると私は考えます。

友達や先生との楽しい時間、思い出が子どもたちの心の傷をいやす薬となるのであれば、学校の果たすべき役割は、本当に大きいものであると、改めて実感させられました。

これからも、共に力を合わせ、子どもたちの瞳の中の小さな希望の光を、決して消してしまうことのないよう見守ってまいります。保護者のみなさま、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。自信も希望を失わず、共に力を合わせ、子ども
たちの未来を守るためにがんばってまいりましょう。

長瀬小の様子

私は主に　4・5・6年生の授業に入り、子供たちの学習の支援を行っております。国語、算数、体育、総合的な学習が担当ですが、4年生はその他にも、図工や音楽などの教科にも入り、楽しくとり組まさせていただいております。

どの子も真面目に学習に取り組み、特に気になるような大きな学習のおくれはみられません。宿題等もしっかりやってきており、不自由な避難生活の中でも、子供たちに目をかけて下さる保護者の皆様に感謝申し上げます。